

事例 5 円滑な小中接続を図りながら、児童に書くことの必要性を感じさせることをねらった事例

- 学年 第6学年
- 主な領域 「書くこと」
- 事例のポイント
 - ①児童が目標をもって中学校への学習につなげていけるようにするために、身近な卒業生の作品を活用する。
 - ②書く活動において複数の児童を同時に支援するために、ICT端末を活用する。
 - ③英語を書く活動において児童に必要性をもたせる指導を行う。
 - ④ICT端末を活用し、児童が書きたい内容について調べ、主体的に書く活動に取り組めるようにする。

1 単元名 Junior Sunshine 6 Lesson 6 My Summer Vacation
夏休みの思い出を発表しよう

2 単元について 省略

3 児童の実態について 省略

4 単元の目標

遠くに住んでいる昨年度のALTに、今年の夏の思い出を伝えるために、自分が言いたい英単語を調べたり、知ったりしながら、英語で手紙（本単元では、思い出カード）を書く。

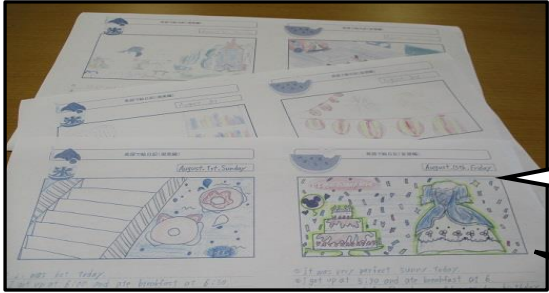
- ・教師やALT、友達の夏休みの思い出を紹介する言い方を聞き、理解することができる。また、夏休みの思い出を表す表現や語句を書くことができる。 〈知識及び技能〉
- ・自分のことをよく知ってもらうために、過去を表す表現や語句を使って、夏の思い出カードを書く。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- ・自分のことをよく知ってもらうために、過去を表す表現や語句を使って、夏の思い出カードを書こうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉


5 単元の評価規準

（本単元における「聞くこと」及び「読むこと」については、目標に向けての指導は行うが、本単元内で記録に残す評価は行わない。）

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
書くこと 書	<技能> ①夏休みの思い出について、過去の出来事に関する語句、I went to ～.などの過去を表す表現を用いて、過去の出来事や感想などを書く技能を身に付けている。	①自分の夏休みの思い出についてわかりやすく伝えるために、過去の出来事や自分の感想を書いている。	①自分の夏休みの思い出についてわかりやすく伝えるために、過去の出来事や自分の感想を書こうとしている。

6 単元計画

時	◆目標・○活動	評価			
		知・技	思・判・表	態	◎評価規準〈評価方法〉
1	<p>◆夏休みの思い出を聞き、基本的な表現に慣れ親しむことができる。</p> <p>○単元の見直しをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の「My Summer Vacation」の内容を知り、この単元の目標を知る。 ・この単元で、夏休みの思い出を表現し、昨年度の ALT に手紙を書くことを知る。  <p>○【Let's Chant 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの思い出チャンツ 1 をする。 <p>○【Let's Play 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポインティングゲームをする。 				<p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
<p>事例ポイント① 教師の手本ではなく、卒業生の作品を見せることで、中学校での学習の意欲付け 中学校での学習への足掛かりとする。</p>					
<p>編 P149 指導計画作成の留意事項(2)</p>					
2	<p>◆相手のことを知るために、夏休みの思い出を表現する単語や短い英文を理解することができる。</p> <p>○教師や現 ALT の夏の思い出について聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短い 3 文程度にまとめられた教師(担任)の夏の思い出を聞く。 ・担任が話した 3 文に加えて、感想や感情を表した語句を加えた現 ALT の夏の思い出を聞く。 <p>○【Let's Chant 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夏休みはどうだった」チャンツをする。 <p>○【Let's Listen 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 人の夏休みの思い出を聞き線で結ぶ。 <p>○【Let's Chant 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの思い出チャンツ 2 をする。 <p>○【Let's Play 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思い出カルタをする。 				<p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
<p>編 P149 指導計画作成の留意事項(2)</p>					
3	<p>◆昨年度の ALT に分かりやすく伝えるために、例文を参考にして、昨年度の自分の夏休みの思い出カードを作成することができる。</p> <p>○【Let's Chant 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの思い出チャンツ 2 をする。 <p>○【Let's Read and Write】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の ALT に自分の夏休みの思い出を伝えるためのカードに書く。 <p>○【Let's Try】</p>	書	書	書	<p>◎夏休みの思い出について、過去の出来事に関する語句、I went to ～. などの過去を表す表現を用いて、過去の出来事や感想などを書く技能を身に付けている。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの夏休みの思い出を紹介する。 ・聞いた人は誰の思い出かを当てる。 		<p>〈ワークシート〉</p> <p>◎自分の夏休みの思い出についてわかりやすく伝えるために、過去の出来事や自分の感想を書いている。〈行動観察・ワークシート〉</p> <p>◎自分の夏休みの思い出についてわかりやすく伝えるために、過去の出来事や自分の感想を書こうとしている。〈行動観察・ワークシート〉</p>
---	--	--

<p>4 ◆友達の「夏休みの思い出」を読んで、内容を読み取ることができる。</p> <p>○【Let's Sing】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Jingle 2 を歌う。 <p>○【文字に慣れよう 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Tic-Tac-Toe (三目並べ) をする。 <p>○【文字に慣れよう 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さとしが夏休みにしたことを表すことばを選ぶ。 <p>○【Let's Try】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識や目的意識をもたせ、友だちの「夏休みの思い出」を読んで、理解したことを伝える。 		<p>※本時では、目標に向けて指導を行うが、記録に残す評価はしない。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても、教師が児童の学習状況を確認する。</p>
---	--	--

編 P149 指導計画作成の留意事項(6)

7 本時の展開

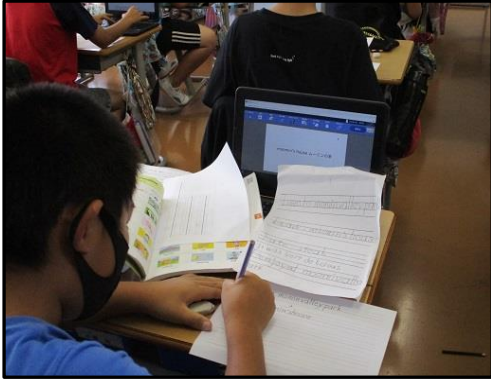
目標 昨年度の ALT に分かりやすく伝えるために、例文を参考にして、昨年度の自分の夏休みの思い出カードを作成する。

準備 天気カード・・・**天カ**、日付カード・・・**日カ**、国旗カード・・・**国カ**
 音声CD・・・**CD**、デジタル教材・・・**デ教**、見本カード・・・**カード**
 ICT端末・・・**ICT**

○本時の展開 (3 / 4)

時間	○児童の活動	・指導者の活動◎評価<方法>	準備物
5分	<p>○挨拶をする。</p> <p>HRT : Hello, everyone. S : Hello, ○○先生. ALT : How are you? S : I'm ~. (児童の状況に応じて) ALT : What day is it today? How is the weather? S : It's ~.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体に挨拶をし、個別に数名の児童に挨拶をする。 ・無理に大きな声を出させるのではなく、互いの目を見て落ち着いて挨拶をさせる。 ・英語が出てこない児童にはジェスチャーで自己表現することを伝える。 ・天気に関しては児童が答えられない時は無理に引き出させるのではなく ALT が英語で表現するようにする。 ・英語の学習に頭を切り替えられるように、児童を支援していく。 	<p>天カ</p> <p>日カ</p>

ALT に自分の夏休みの思い出を伝えるためにカードに書く。



紙)を書く。基本は2つ以上の文を自分で選んで書くことにするが、それ以上に伝えたいことがある児童には、実態に合わせて大きな紙を渡す。

- ・実際のカードに清書する前に、あらかじめ考えてある文を児童のICT端末から教師のデータボックスに送らせることで、教師が事前に確認、指導ができる。

◎夏休みの思い出について、過去の出来事に関する語句、I went to ～などの過去を表す表現を用いて、過去の出来事や感想などを書く技能を身に付けている。【知・技】書①〈ワークシート〉

【知識・技能】の評価基準

- A: 自分の夏の思い出を表す語句や表現を、文字と文字、語と語の間隔に適切なスペースにおき、正しく書いている。また、自分のその時の感想を書くことができる。
- B: 自分の夏の思い出を表す語句や表現を、文字と文字、語と語の間隔に適切なスペースにおき、正しく書いている。
- C: 教師の支援のもとで、自分の夏の思い出を表す語句や表現を、文字と文字、語と語の間隔に適切なスペースにおき書いている。

○教師からのアドバイスを受け、内容や表現を広げる。



事例ポイント③

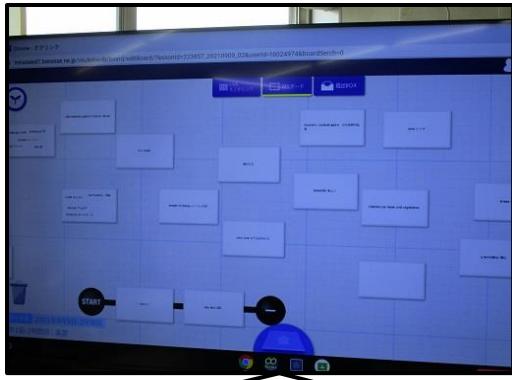
遠く離れたALTに自分のことを伝えたいという活動に設定することで、書く必要性のある授業にする。

- ・児童の疑問に答えることで全体に工夫や語彙を広げていく。(中間指導)
- ・書き写しやすいうように、ICT端末中の『授業支援ソフト オクリンク』の中に書き写し用でデータを保存しておき、自分で伝えたいことに合わせてデータを活用する。
- ・作成したカードを見てもらう活動を入れることで、より丁寧に正確に英語を書こうとする児童を増やす。

◎自分の夏休みの思い出についてわかりやすく伝えるために、過去の出来事や自分の感想を書いている。【思・判・表】書①〈行動観察・ワークシート〉

【思考・判断・表現】の評価基準

- A: 読み手を常に意識し、自分の夏の思い出について分かりやすく伝えるために、文の順を工夫したり、よりよく伝わるために自分の感想を書き加えたりしながら、丁寧に文を書き写したり、自分で考えた文を書いたりしている。
- B: 自分の夏の思い出について分かりやすく伝えるために、教師の手本を書き写したり自分で考えた文を書いたりしている。
- C: 自分の夏の思い出について分かりやすく伝えるために、教師の支援を受けながら教師の手本を書き写したり、自分で考えた文を書いたりしている。



- ・例文にないもので、児童が表現したことがあれば、その場でICT端末を使って画面共有したり、データを送ったりすることで、児童の伝えたい思いを大切に活動にする。
- ◎自分の夏休みの思い出についてわかりやすく伝えるために、過去の出来事や自分の感情や感想を書こうとしている。【態】書①〈行動観察・ワークシート〉

事例ポイント④

ICT端末を使うことで全員が知りたいデータを共有できる。また、データとして保存し、いつでも引き出せるので、児童は教師の指導を待たずに自分で主体的に書く活動に取り組める。

【主体的に学習に取り組む態度】の評価基準

- A：昨年のALTに自分の夏の思い出についてよく知ってもらうために、本単元の過去を表す語句や既習の表現を用いて、夏に自分のしたことや感想などを書こうとしている。
- B：昨年のALTに自分の夏の思い出についてよく知ってもらうために、本単元の過去を表す語句や既習の表現を用いて、夏に自分のしたことについて書こうとしている。
- C：昨年のALTに自分の夏の思い出についてよく知ってもらうために、教師の支援のもとで本単元の過去を表す語句や既習の表現を用いて、夏に自分のしたことについて書こうとしている。

7分

○【Let's Try】

- ・教師とALTのデモンストレーションを見て、活動内容を知る。
- ・友達の夏休みの思い出を紹介する。

HRT：Hi, ○○先生。

ALT：Hi, ○○先生。

HRT：This is my summer vacation.

I went to ○○.

I ate ○○.

It was very delicious.

ALT：That's good.

OK. My turn. Please listen.

I went to ○○.

I enjoyed ○○.

It was very fun.

※この流れを次にHRTと児童、そして、児童同士でデモンストレーションする。

- ・聞いた人は誰の思い出か推測する。

- ・以下の順でデモンストレーションを見せる。
 - ①教師とALTのデモ
 - ②教師と児童のデモ
 - ③ALTと児童のデモ
 - ④児童と児童のデモ
- ・のように、徐々に児童主体で活動が行えるように指導していく。
- ・児童によってはすぐに文を読むことができないので、読む時間や質問する時間を設けてから活動する。
- ・一人一人が作成した思い出カードを利用し、そのカードをランダムに配り、その人になりきって友達に思い出を紹介する。

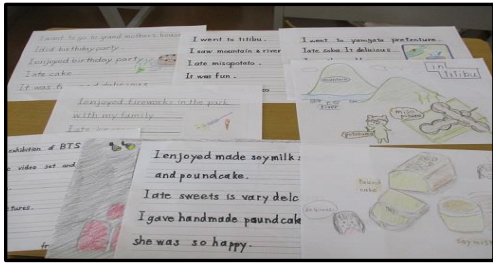


- ・しっかりと目的意識をもたせて、相手のことを理解するためということを再度指導して支援を行う。

3分

- 本時のまとめと振り返りをする。

- ・本時のねらいに照らして、児童の向上したことや学び方のよさを確認



○全体に挨拶する。

し、次単元でも主体的に活動できるように称賛する。

・全体に挨拶する。